

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901664		
法人名	社会福祉法人高志会		
事業所名	れんげ荘グループホーム (太陽)		
所在地	大阪府高槻市三島江四丁目15-5		
自己評価作成日	令和5年12月17日	評価結果市町村受理日	令和5年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiqvosyoCd=2770901664-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ぱ・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和5年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍にて、外出支援が出来ない中、感染対策を十分に気をつけ春には車窓にて花見ツアーを企画・実施しました。また、四季に合わせて、流しそうめん・スイカ割り・芋ほり・BBQ・餅つきなど、施設内でも季節を感じて頂けるように行事に力を入れています。裏庭の畑では、野菜の苗植えや収穫を行い、収穫した野菜は、行事食にて調理し提供させて頂き、入居者様は大変喜ばれています。年間を通して近所に散歩に出かけ、5月にはれんげの花・11月にはコスモスの花を見に行き、お正月には近所の神社まで初詣に行きました。入居者様一人ひとりが役割を持って生活して頂けるように、食事の盛り付けや洗濯・掃除・洗い物など今迄の生活歴を把握し支援しています。これからも入居者様が日々を生き生きと過ごす事が出来るように支援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の 人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念が新たに変わり、グループホーム独自のスローガンを目に付く所に掲げている。会議等で、必ず唱和する事で、共有・実践している。新しい職員には入職時にも伝え職員に周知している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や花いっぱい運動に積極的に参加して交流を図っている。ゴミ出し等で、地域の方にお会いする際は、挨拶を交わし地域と繋がりを築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や消防訓練を通じて認知症の理解を深めている。コロナ渦で、地域活動を自粛していたが、去年から参加出来るようになりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の運営推進会議は、書面にて開催しています。近況報告や活動報告を行っています。意見やアドバイスを参考にしながら、サービス向上・改善に取り組んで、より良いグループホームを目指しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	去年より、市の訪問が一時中止になっている。市町村担当者とは、運営推進会議や電話・窓口などで、ホーム内の問題や改善点を相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、身体拘束の研修を行っており、全職員に周知している。身体拘束廃止マニュアルを新人研修や勉強会で活用し、意識付けを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基づくマニュアルを独自に作成し、全職員に周知している。勉強会も定期的に行われ、職員への意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修・ユニットリーダー研修・外部研修で学んだ内容を、勉強会にて職員に伝達講習している。また、個々に必要な時には関係者と相談し活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を説明して上で、疑問などを聞き、本人・家族が理解・納得された事を確認している。また、説明の際は、わかりやすく説明するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者懇談会・家族懇談会を書面で行う中、家族の意見や要望などを聞きリーダー会議やフロア会議などで報告・検討している。各ユニットに意見箱を設置しており、日頃から相談しやすい環境作りを心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議とフロア会議を毎月行っている。委員会・クラブ活動・行事の報告・意見・提案・要望を聞いている。職員は、管理職による年に2回の面談があり、意見や思いを聞く機会を作っている。普段から相談しやすい関係作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に二回、職員の面談・評価を行い管理者に報告している。また必要に応じて面談を行い職場環境の改善に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員全体に対して介護技術や知識を指導し確認している。また職員の一人ひとりの課題を設定し、必要に応じて研修を受けるように取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>例年は、各事業所の会議や勉強会、合同の行事への参加を通じて他の事業所との交流や意見交換を行っている。今年度は書面やオンライン等で参加している。</p>		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談時は、話しやすい雰囲気を作るように心がけ、アセスメントを通して抽出した課題や問題解決に取り組んでいる。また日常生活の中での入居者からの要望に対応出来るように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用前から家族との連絡を密にして、要望や抱えてる不安を把握するように努めている。サービス導入後も電話連絡や面会時に家族からの要望や相談を受け、不安の払拭に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントを通して出てきた初期段階での課題や問題を解決できるように取り組んでいる。また、日常生活の中での入居者からの要望に対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話の中で要望や意見を聞き、自ら出来ることを増やす支援に努めている。在宅時のように家事をよくお手伝いして下さったり、アドバイスしてくれている。お互いが感謝の気持ちを忘れず、良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議などで意見交換を行い、家族の絆・支援が重要であることを理解して頂き、本人と関わってもらえるようにしている。家族による支援も含めたプラン作成に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との電話・手紙のやり取りは、要望があれば支援している。また、入居以前の趣味も行事に取り入れて楽しんでもらっている。年賀状の返事を一緒に書き、投函するなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味が合う入居者同士の関わりを工夫したり、他者との関わりが苦手な入居者に対する環境作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、年賀状や広報誌の送付などを行い関係を継続する体制に努めている。また、家族や親戚からの相談にのることもある。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アシストの実践のほか、日々の様子観察やモニタリングを繰り返し行っている。また困難な場合は、家族からの情報を得たり、表情やしぐさを基に職員間で情報共有したうえで検討できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・友人などの情報や、これまでの担当者による情報提供にて把握している。日々の会話の中でも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での表情などを観察し、生活リハビリの状況を申し送りなどを通して情報交換や共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回、フロア会議にて情報交換・課題を話し合い、ケアプランに活かしている。本人・家族の意向を反映させ介護計画を作成している。三ヶ月毎にモニタリングし評価を行っている。六ヶ月ごとに見直し、変化があれば随時に見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援の内容、過ごしている様子を具体的に記録し内容を把握している。職員や看護師からの情報を得ながら、定期的に評価・考察している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診援助・受診の際の情報提供・れんげ診療所のDr回診や皮膚科・歯科の往診などの多様なニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力をはじめ、様々な社会資源の活用と開拓について、協議を行い、より良い暮らしが出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医に受診出来る様に配慮したり、本人・家族が納得した上で継続的に受診できるように支援している。状況に応じて同行したり、電話・手紙で状態説明もしている。</p>		
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎朝の申し送り時に看護師に入居者の体調を報告・相談している。また日々の中でも報告を怠らず、適切な看護が受けれるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は必ず医療機関の相談員に連絡を取り情報共有している。また入院中はお見舞いに行ったり電話での情報交換を行う体制をとっている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に延命処置の有無を確認している。また終末期を迎える前に、本人・家族・主治医と話し合い今後の対応を検討している。意向を聞きながら、受け入れ可能な施設や病院を紹介している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアルを作成し周知している。外部の救命講習・応急手当普及員等の研修にも参加し、内部研修や勉強会などで応急手当や対応のシュミレーション訓練を行っている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回、消防訓練を行い避難誘導・通報訓練等を行っています。ホームでも毎月2回自衛消防訓練を行い、入居者と防災について話し合う等、日頃からの備えに努めている。訓練時には、通報・消火活動・避難誘導は職員が行っている。災害時のマニュアル作成や数日間の備蓄食・水を蓄えており、炊き出し訓練も実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りをもって生活が送れるように支援している。排泄・入浴などの対応時は、プライバシー保護に対して十分配慮出来るように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、常に選択肢を提供し本人の希望を聞き確認した上で支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の体調・心身状況に応じた柔軟な支援を心掛けている。入浴日の選択や順番などは本人の生活ペースを崩さないよう配慮し行事参加の希望があれば、他の日に振り当てる等の対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、自身が着たい服を選んで着用している。行事などで外出時は化粧をしたり、また入居者が好んでされるオシャレに対しては尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の食事メニューは入居者の手で書き出してもらい、食事の盛り付け・配膳・下膳をするなど職員と共に行っている。食べたい物を聞き取り、調理レクレーションにて入居者と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が少ない方には、家族に相談し栄養補助食品で対応している。水分量が少ない方には、好みの飲料水や家族からの差仕入れなどを提供している。一日の食餌量・水分摂取量を記録し脱水にならない様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け・見守り・一部介助などで清潔保持に努めている。また異常があれば随時歯科医に報告・相談をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、一人ひとりの排泄サイクルを把握し記録表をつけている。声掛けや誘導を行うことでトイレにて排泄を試みている。排泄失敗の原因を探りおむつ以外の支援方法を検討したり、夜間時はポータブルトイレの検討も随時行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄表を用いて排便の把握を行っている。便秘者は、看護師に報告・指示を受けている。日頃から、体操・運動・水分不足にならない様に注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回の入浴を基本に、入居者が望む入浴が出来るように日々の確認を行い、浴槽につかる時間やお湯加減の好みを把握している。また、気分が乗らない時や希望日がある場合には柔軟に対応している。足湯や季節感のある変わり湯も楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて日中の休憩時間を確保出来るように対応している。また夜間巡回時も様子確認を行いその都度、温度調節や居室湿度調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や副作用は紙面で確認を行い、適切な服薬支援を行っている。また看護師と連携し必要に応じて薬について尋ねたり、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが役割を持って生活して頂けるように食事の盛り付けや洗濯・掃除・食器洗いなど今迄の生活歴を把握し支援している。また、以前の趣味や得意とすることを継続できるように個別に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は年間を通して買い物や外出をしていたが、コロナ渦で外出支援が出来ない中、地域ボランティア活動に参加したり、天気良ければ近所や神社に散歩して支援を行っている。感染対策を行い、バスツアーにて桜見や初詣などの支援も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にて管理されている方が数名おられる。月一回のパン販売では、自分で選び購入出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族に電話したい要望があれば電話支援を行っている。公衆電話も設置している。手紙についても必要時に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下の床は2重構造で歩きやすく光の差し込みが強い窓には、ロールカーテンで対応している。リビングでの電球はLED電球で目に優しい照明を使用している。玄関には靴箱が設置されており、食堂には季節感のある飾りづけを入居者さんと共に作成し一緒に飾っている。温度や湿度も適宜確認・調整し毎日清潔な空間を保つように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、二人掛けのソファや窓際の廊下にはマッサージチェアを設置している。会話を楽しんだり四季折々の花げ咲く堤防の風景を眺めたり過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具・衣類・写真などを持っていており、配置なども家族と本人の意向を配慮し相談しながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来る事を把握し、安全・安心に行えるようにフロア会議等で話し合っている。又私物の管理等は相談しながら居室担当者で行っている。		